

第33期 (2013年6月期)

第1四半期連結業績説明資料

2012年 11月

株式会社

ドンキホーテ

Don Quijote Co.,Ltd.

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki.com>

e-mail : takahashi@donki.co.jp

ドン・キホーテ増収増益

12年7～9月期

ドン・キホーテが6日に発表した2012年7～9月期の連結決算は、営業利益が前期比6%増の82億円、経常利益は13%増の84億円と景況感が足踏む中でも好業績を継続している。

売上高は4%増の1,404億円だった。前期における「デジタルテレビ」や「節電商品」などに係る特需の反動減の影響で既存店は1.6%減と苦戦したが、時流やテーマをとらえた商品提案と絶妙な価格設定が、顧客基盤を確実に広げている。また比較的利益率の高いプライベートブランド商品や猛暑を味方にした季節商品の販売が好調に推移し、粗利益率を0.6ポイント押し上げた。

出店増に伴う費用負担は、増収効果で吸収した。店舗展開は新しいステージに突入している。主力のドン・キホーテは安定感を増しており、その独自性は揺るがない。またファミリー向けの大型店は全国展開を始動させて50店を突破。利益拡大に寄与している。

7～12月期は一部において価格競争が激化するなど、消費環境に減速感が漂い始めているとの見方もあるが、引き続き堅実な業績成長を見込む。

Donki wo

mini kite kudasai



2013年6月期 1 Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債、純資産の状況
- ✓セグメント情報
- ✓キャッシュフロー、設備投資の状況
- ✓1Q決算レビュー

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓出店状況&ハイライト情報
- ✓月次販売の状況
- ✓店舗業態の状況
- ✓PB「情熱価格」の状況
- ✓四半期業績推移
- ✓アクリーティブの状況

2013期6月期 業績予想

本資料における記載金額及び比率は、単位未満を四捨五入して表示しております。

本資料中、ドン・キホーテは「DQ」、アクリーティブは「ACR」と表示している箇所があります。

1.1 Q業績概況

厳しい巡り合わせの中でも予想を上回る増収増益で着地！

- ▶ 既存店は前期特需の反動減及び天候不順などの影響で軟調な進捗状況となる一方、新規出店数増加に伴うイニシャルコストや電気料金の負担増などは、新店を中心とした増収効果及び粗利益率改善で吸収し増益達成。
- ▶ ファミリー向けの「New MEGA」が進化を遂げながらネットワーク拡大中。一方で、滞留商品を中心に在庫削減策を推進したことから、生産性が向上し、交差主義比率も改善。営業利益率は0.1pt、経常利益率は0.5pt改善。
- ▶ 消費動向に影響を及ぼす外的要因が、短サイクルで現われた商環境で、商品ポートフォリオの積極的な組み替えが奏功。さらにPB商品を中心にした商品提案力に磨きをかけて、お客さまリピート率を安定させたため、収益力は向上。
- ▶ これらのことから、1Q連結業績は、売上高1,404億円（前期比4.1%増）、営業利益82億円（同6.0%増）、経常利益84億円（同13.0%）と予想を上回る増収増益で着地。なお、純利益は前期に特別利益が計上された反動で51億円（同24.0%減）。

2. 業績見通し

2Q累計・通期業績予想とも期初予想を据え置き！

- ▶ 2Q累計期間の連結業績見通しは、売上高2,870億円（前期比3.6%増）、営業利益174億円（同1.1%増）、経常利益170億円（同3.3%増）及び純利益110億円（同7.8%減）。
- ▶ 通期の連結業績見通しは、売上高5,600億円（同3.7%増）、営業利益305億円（同4.0%増）、経常利益303億円（同3.5%増）及び純利益200億円（同0.8%増）と期初予想通りに据え置き。

3. 「消費増税対策3カ年計画」を着実に進めます！

1Q決算業績サマリー

【期間：2012年7月1日～2012年9月30日】

(単位：百万円)

連結実績	1 Q 実績				前1Q 実績		2Q累計 公表予想 ^{※1}	
	金額	百分比	前期比	進捗率 ^{※2}	金額	百分比	金額	百分比
売上高	140,379	100.0%	104.1%	48.9%	134,863	100.0%	287,000	100.0%
売上総利益	37,010	26.4%	106.2%	49.7%	34,837	25.8%	74,400	25.9%
販管費	28,766	20.5%	106.3%	50.5%	27,056	20.0%	57,000	19.9%
営業利益	8,244	5.9%	106.0%	47.4%	7,781	5.8%	17,400	6.0%
経常利益	8,366	6.0%	113.0%	49.2%	7,405	5.5%	17,000	5.9%
当期純利益	5,069	3.6%	76.0%	46.1%	6,674	4.9%	11,000	3.8%
1株利益	65.72円			75.9%	86.64円		142.61円	

個別実績	1 Q 実績				前1Q 実績		(参考予想)	
	金額	百分比	前期比	進捗率 ^{※2}	金額	百分比	金額	百分比
売上高	96,873	100.0%	105.2%	48.9%	92,051	100.0%	198,000	100.0%
売上総利益	25,350	26.2%	109.2%	50.2%	23,224	25.2%	50,500	25.5%
販管費	19,358	20.0%	110.9%	51.6%	17,462	19.0%	37,500	18.9%
営業利益	5,992	6.2%	104.0%	46.1%	5,762	6.2%	13,000	6.6%
経常利益	5,990	6.2%	111.0%	46.8%	5,396	5.9%	12,800	6.5%

※1. 連結業績予想は、2012年8月17日に公表したものであります。

※2. 進捗率は第2四半期累計期間に係る業績予想に対する進行割合を表しております。

1Q連結業績概況コメント

▶ 連結売上高：1,404億円（前期比4.1%増）

女性顧客を中心に、生活必需品の販売が安定しており、さらに「美容」「健康」「嗜好」に適う商品や猛暑効果による季節商品が好調に推移。一方でDQ既存店は1.6%減、MEGA中心の長崎屋は0.4%増と、前年ハードルの影響及び価格競争激化などで7月度のマイナスダメージが大きかったが、新規店舗がカバーし増収。

▶ 当1Q末店舗数：243店（前期末242店）

新規出店3店（New MEGA3店）、閉鎖2店（長崎屋・ドイツ）。

▶ 連結売上総利益：370億円、同率：26.4%（前期比0.6pt改善）

前期夏商戦における特需の反動を受けた環境下で、お客さま支持率の高い商品を展開し、併せてPB商品や季節商品をバランス良く販売。さらに商品管理精度を向上させながら、在庫削減を進めたことから、売上総利益率は0.6pt改善。

▶ 連結販管費：288億円（同6.3%増）、販管费率：20.5%（同0.5pt低下）

新規出店については、従来よりも比較的大型サイズの店舗を、地方エリアにおいて開発促進したことから、関連諸費用及び光熱費などの負担増が生じたものの、コストコントロールを機能させた結果、営業利益率改善に寄与。

▶ これらのことから、営業利益82億円（同6.0%増）、経常利益84億円（同13.0%増）とも予想を上回って着地。

当期純利益は51億円（同24.0%減：前期に特別利益を計上した反動のため）。

1Q連結業績概況

(単位：百万円)

	当1Q		前1Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	140,379	100.0%	134,863	100.0%	104.1%
売上総利益	37,010	26.4%	34,837	25.8%	106.2%
販管費	28,766	20.5%	27,056	20.0%	106.3%
給与手当	9,784	7.0%	9,172	6.8%	106.7%
地代家賃	4,289	3.0%	4,544	3.4%	94.4%
支払手数料	3,057	2.2%	3,085	2.3%	99.1%
減価償却費	2,332	1.7%	2,172	1.6%	107.4%
その他	9,305	6.6%	8,082	5.9%	115.1%
営業利益	8,244	5.9%	7,781	5.8%	106.0%
経常利益	8,366	6.0%	7,405	5.5%	113.0%
当期純利益	5,069	3.6%	6,674	4.9%	75.9%
1株当たり純利益	65.72円		86.64円		75.9%

1Q事業別業績概況コメント

▶ リテール事業1,352億円（前期比4.3%増）

前期特需の反動に苦戦する部門がある一方で、生活必需品はニーズに応じた商品構成と価格訴求がお客さまリピート率を高水準で維持。猛暑効果は季節商品の販売を促進。

* 「家電製品131億円（同7.4%減）

アナログ停波以降に家電製品マーケットが縮小する中で、スマートフォン関連や電機小物への柔軟なシフトにより、前年同期を上回る粗利益額を確保。

* 「日用雑貨品」309億円（同4.8%増）

女性客の増加は化粧品やボディケア用品などに追い風となって、前年の節電需要により伸長したひんやりマットなどの寝具類や買い替え頻度の低い商品の需要減をカバー。

* 「食品」390億円（同5.1%増）

高気温が続いたことからドリンク類・氷菓類は好調に推移。
健康志向に伴い、野菜ジュース・ヨーグルト・飲用酢・トクホ関連商品などが伸長。

* 「時計・ファッション用品」318億円（同11.2%増）

継続する円高、金相場高騰の後押しを受けて、宝飾品・アクセサリー類の需要が強い。水着などの季節用品が伸長。

* 「スポーツ・レジャー用品」102億円（同8.5%増）

花火・マリンスポーツ用品など前年自粛傾向にあったアウトドア関連商品が好調に推移。フィットネス・エクササイズ用品も貢献。

* 「DIY用品」46億円（同2.4%減）

前期の震災特需の反動減の影響で弱含みの推移も、収益力は徐々に改善。

* 「海外（ハワイ）」31億円（同0.8%減）

惣菜や鮮魚を中心とした食品の提案力と品質面が顧客支持に安定をもたらせて、地元客の固定客化が進む。
アパレル・ハワイアン雑貨も人気。USドルベースで既存3店は0.5%増。（ご参考：当1Q1\$=80.1円、前1Q=81.2円）

▶ テナント賃貸事業40億円（同0.7%減）

テナント事業者の規模縮小傾向に底打ち感が現われており、収益状況は改善。

1Q事業別業績概況

(単位：百万円)

	当1Q		前1Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	135,221	96.3%	129,625	96.1%	104.3%
家電製品	13,142	9.3%	14,185	10.5%	92.6%
日用雑貨品	30,862	22.0%	29,441	21.8%	104.8%
食品	39,009	27.8%	37,113	27.5%	105.1%
時計・ファッション用品	31,812	22.6%	28,604	21.2%	111.2%
スポーツ・レジャー用品	10,206	7.3%	9,411	7.0%	108.5%
DIY用品	4,582	3.3%	4,693	3.5%	97.6%
海外	3,113	2.2%	3,139	2.3%	99.2%
その他商品	2,495	1.8%	3,039	2.3%	82.1%
テナント賃貸事業	3,950	2.8%	3,977	3.0%	99.3%
その他事業	1,208	0.9%	1,261	0.9%	95.8%
合計	140,379	100.0%	134,863	100.0%	104.1%

※報告セグメントについては、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

主な資産の状況

(単位：百万円)

	12年9月	12年6月	増減額
流動資産	140,136	138,816	1,320
現預金	38,868	34,237	4,631
商品	79,570	83,641	▲4,071
固定資産	235,057	223,835	11,222
建物等	64,422	59,899	4,523
土地	104,188	97,317	6,871
敷金保証金	32,110	32,286	▲176
資産合計	375,193	362,651	12,542

主な資産の状況

- **総資産：3,752億円**（前期末比125億円増）
主な増減は、現預金46億円及び出店に伴う有形固定資産117億円などが増加の一方で、商品41億円減少
- **現預金：389億円**（同46億円増）
当期における設備投資資金及び過年度調達分の返済資金を銀行借り入れにより調達したため
- **商品：796億円**（同41億円減）
新規出店に伴い店舗面積が増加する一方で、滞留在庫を中心に処分を促進。商品管理精度も向上し、生産性改善（参考：前1Q比店舗面積8.9%増、商品1.8%（15億円）減少）
- **固定資産：2,351億円**（同112億円増）
新規出店3店及び次期以降の出店用地獲得のため

主な負債・純資産の状況

(単位：百万円)

	12年9月	12年6月	増減額
流動負債	126,287	120,243	6,044
買掛金	45,008	44,793	215
短期負債 ^{※1}	59,633	49,045	10,588
固定負債	100,445	96,673	3,772
社債等 ^{※2}	48,320	47,820	500
長期借入金	37,387	36,476	911
負債合計	226,732	216,916	9,816
純資産合計	148,461	145,735	2,726
負債・純資産合計	375,193	362,651	12,542

主な負債・純資産の状況

- ▶ 負債合計：2,267億円（同98億円増）
主な増減は、年度資金を調達したことから有利子負債120億円増（短期性負債106億円増、長期性負債14億円増）の一方で、未払法人税等27億円減少
- ▶ 有利子負債：1,453億円
（同120億円増、依存率38.7%：うちACR149億円）
- ▶ 純負債：1,065億円（同74億円増）
- ▶ D/Eレシオ：97.9%
（前1Q比13.2pt.減：ACR除き89.4%）
- ▶ インタレスト・カバレッジ・レシオ：22倍
- ▶ 純資産：1,485億円
（前期末比27億円増、自己資本比率39.0%）

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債、同転換社債

※2 社債等＝社債、転換社債

1Qセグメント情報

主力の「リテール事業」のセグメント利益は6.5%増の63億円、
 微減収の「テナント賃貸事業」は3.8%増の13億円といずれも順調！！

当1Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業※	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	135,221	3,950	1,208	140,379	—	140,379
内部取引等	1	673	911	1,585	▲1,585	—
計	135,222	4,623	2,119	141,964	▲1,585	140,379
セグメント利益	6,331	1,338	552	8,221	23	8,244

前1Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業※	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	129,625	3,977	1,261	134,863	—	134,863
内部取引等	1	720	449	1,170	▲1,170	—
計	129,626	4,697	1,710	136,033	▲1,170	134,863
セグメント利益	5,943	1,289	488	7,720	61	7,781

キャッシュフロー&設備投資の状況



(単位：百万円)

	当1Q	前1Q	増減額
1.キャッシュフローの状況			
期首残高	29,973	26,875	3,098
営業活動CF	11,307	4,853	6,454
投資活動CF	▲13,753	▲15,637	1,884
財務活動CF	9,655	9,553	102
期中増減等	7,058	2,256	4,802
期末残高	37,031	29,131	7,900

キャッシュフロー

<営業CF>

➢ 税金等調整前純利益83億円、減価償却費26億円及びたな卸資産の減少40億円などが増加要因となる一方で、税金支払額46億円が減少したことなどから、113億円の収入

<投資CF>

➢ 出店に伴う有形固定資産の取得などで138億円の支出

<財務CF>

➢ 銀行調達及び社債発行による純増加額119億円の一方で、配当金支払額16億円などにより、97億円の収入

2.設備投資の状況

設備投資額	14,162	4,277	9,885
キャッシュフロー [※]	5,877	7,741	▲1,864
差引	▲8,285	3,464	▲11,749

設備投資

➢ 設備投資は142億円（DQ67億円、長崎屋6億円、日本商業施設66億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は138億円）、キャッシュフローは59億円獲得したが、フリーキャッシュフローは▲83億円。
（※営業キャッシュフローは113億円獲得）

※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

当期出店状況

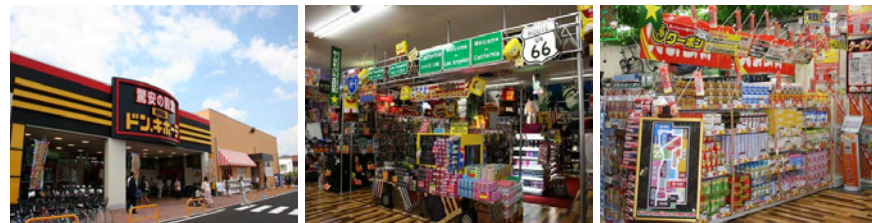
フォーマット別店舗数

	2011年 6月期	2012年 6月期	2013年 6月期1Q
ドン・キホーテ※1	150	157	157
ピカソ※2	10	14	14
M E G A※3	43	49	52
海外(ハワイ)	3	3	3
ドイト	16	14	13
長崎屋	6	5	4

法人別店舗数

ドン・キホーテ	169	185	188
長崎屋	40	40	39
ドイト	16	14	13
D Q U S A	3	3	3
合計	228	242	243

- ※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれております。
- ※2. 「ピカソ」には、「ピカソ」及び「エッセンス」が含まれております。
- ※3. ㈱長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。
- ※4. 上記の他に、2店舗(長崎屋・ドイト)を閉鎖しております。



MEGAドン・キホーテ 岐阜瑞穂店

2012.8.24オープン

JR線「穂積駅」より徒歩約20分

【営業時間】9:00AM~3:00AM

【売場面積】4,777㎡

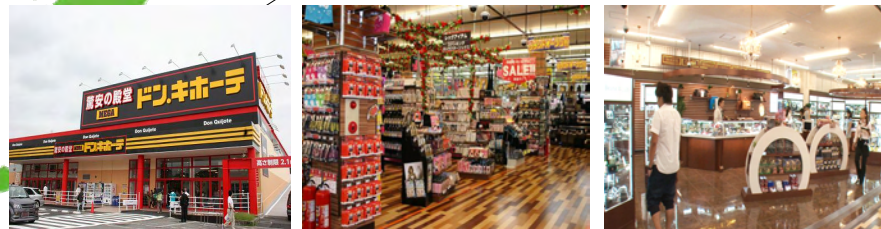
MEGAドン・キホーテ袋井店

2012.9.13オープン

JR東海道本線「袋井駅」より徒歩約30分

【営業時間】10:00AM~3:00AM

【売場面積】3,618㎡



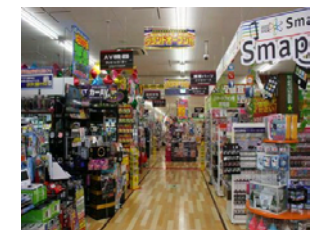
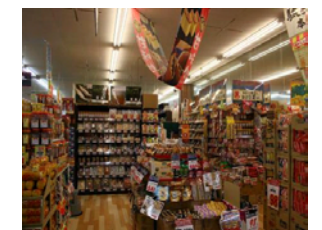
MEGAドン・キホーテ四日市店

2012.7.6オープン

近鉄八王子線「西日野駅」より徒歩10分

【営業時間】10:00AM~3:00AM

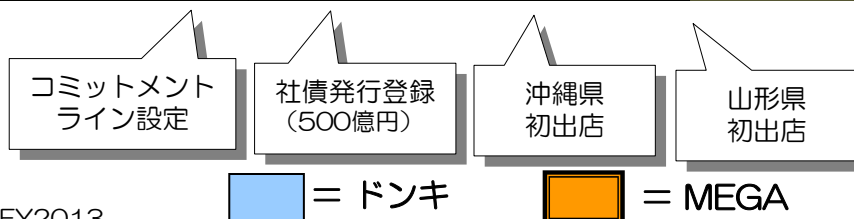
【売場面積】4,044㎡



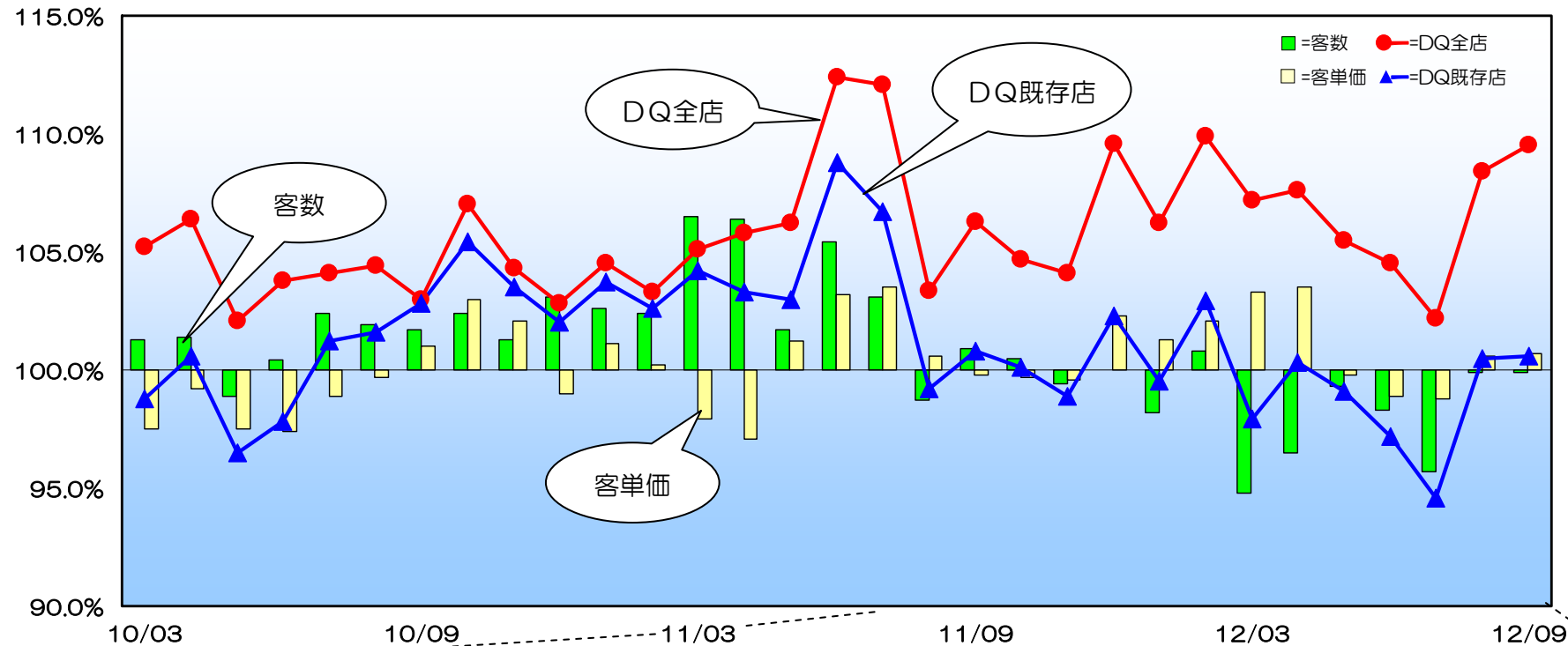
当期ハイライト

「New MEGA」店は、ネットワークを拡大しながら着実に進化。
既存店は、競争力及び収益力のさらなる強化を図りながら顧客を囲い込む。
通期の新規出店は15店程度を予定。

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
D Q	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">四日市</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">岐阜瑞穂</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">袋井</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">広島 八丁堀</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">宜野湾</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">山形嶋南</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">守口大日</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">下関長府</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">上越 インター</div> </div>		
長崎屋				
ドイト				



月次販売高の状況 (DQ)

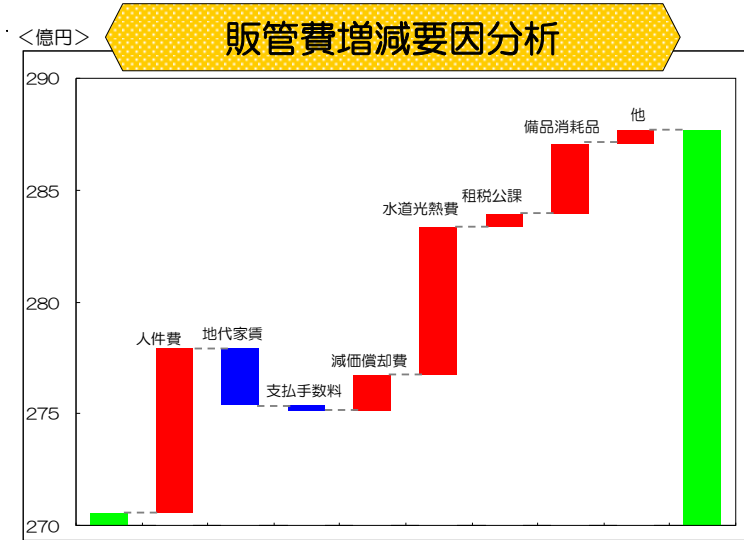
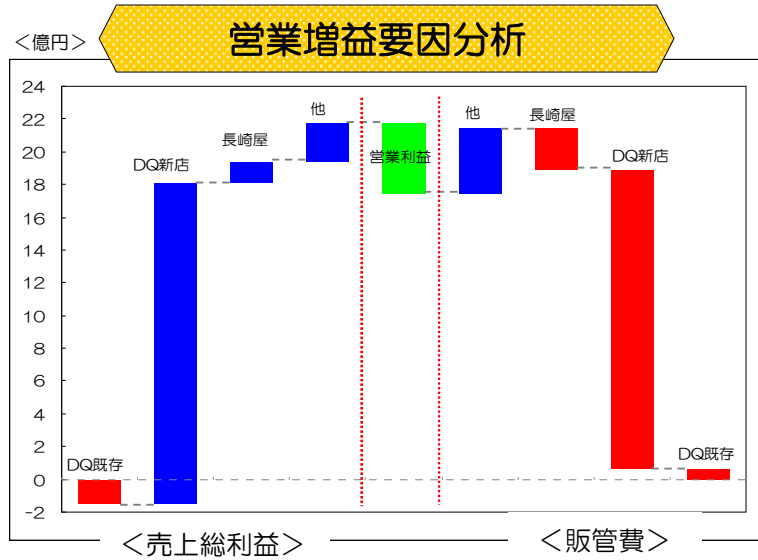


既存店	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	106.7%	99.2%	100.8%	100.1%	98.9%	102.3%	99.5%	102.9%	97.9%	100.3%	99.1%	97.2%	94.6%	100.5%	100.6%
・客数	103.1%	98.7%	100.9%	100.5%	99.4%	100.0%	98.2%	100.8%	94.8%	96.5%	99.3%	98.3%	95.7%	99.9%	99.9%
・客単価	103.5%	100.6%	99.8%	99.7%	99.6%	102.3%	101.3%	102.1%	103.3%	103.5%	99.8%	98.9%	98.8%	100.6%	100.7%
対象店舗数	158店	160店	160店	160店	161店	163店	163店	162店	156店	158店	164店	164店	165店	167店	167店

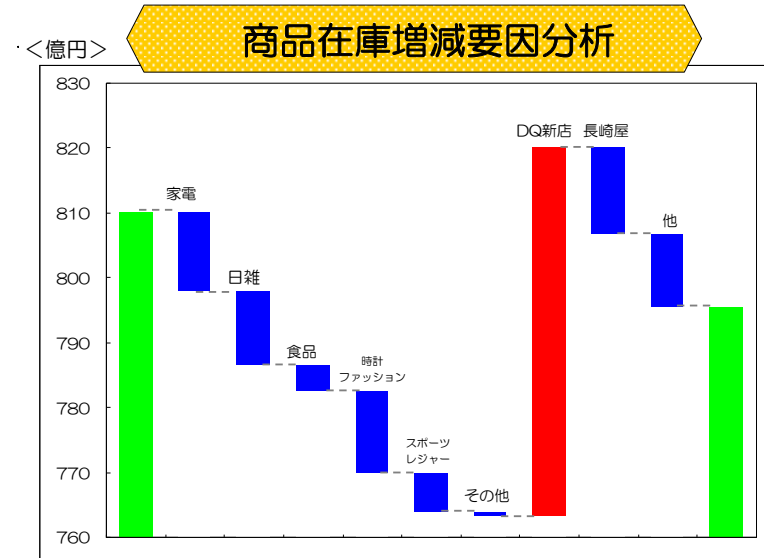
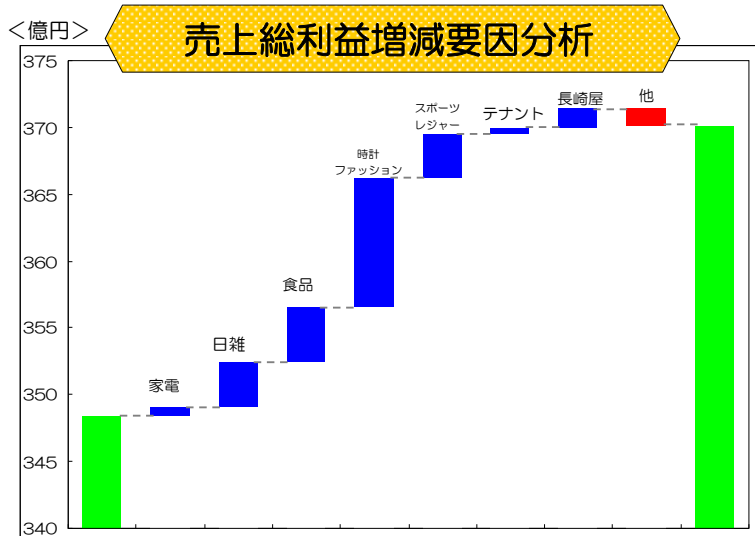


前期における特需の反動が大きく響いた7月度の落ち込みをカバーしきれなかった中で、猛暑効果に加えて、「美容」「健康」「嗜好」など、テーマ別消費は堅調なトレンド。
DQ既存店伸長率は1.6%減（客数1.6%減、客単価0.1%減）。

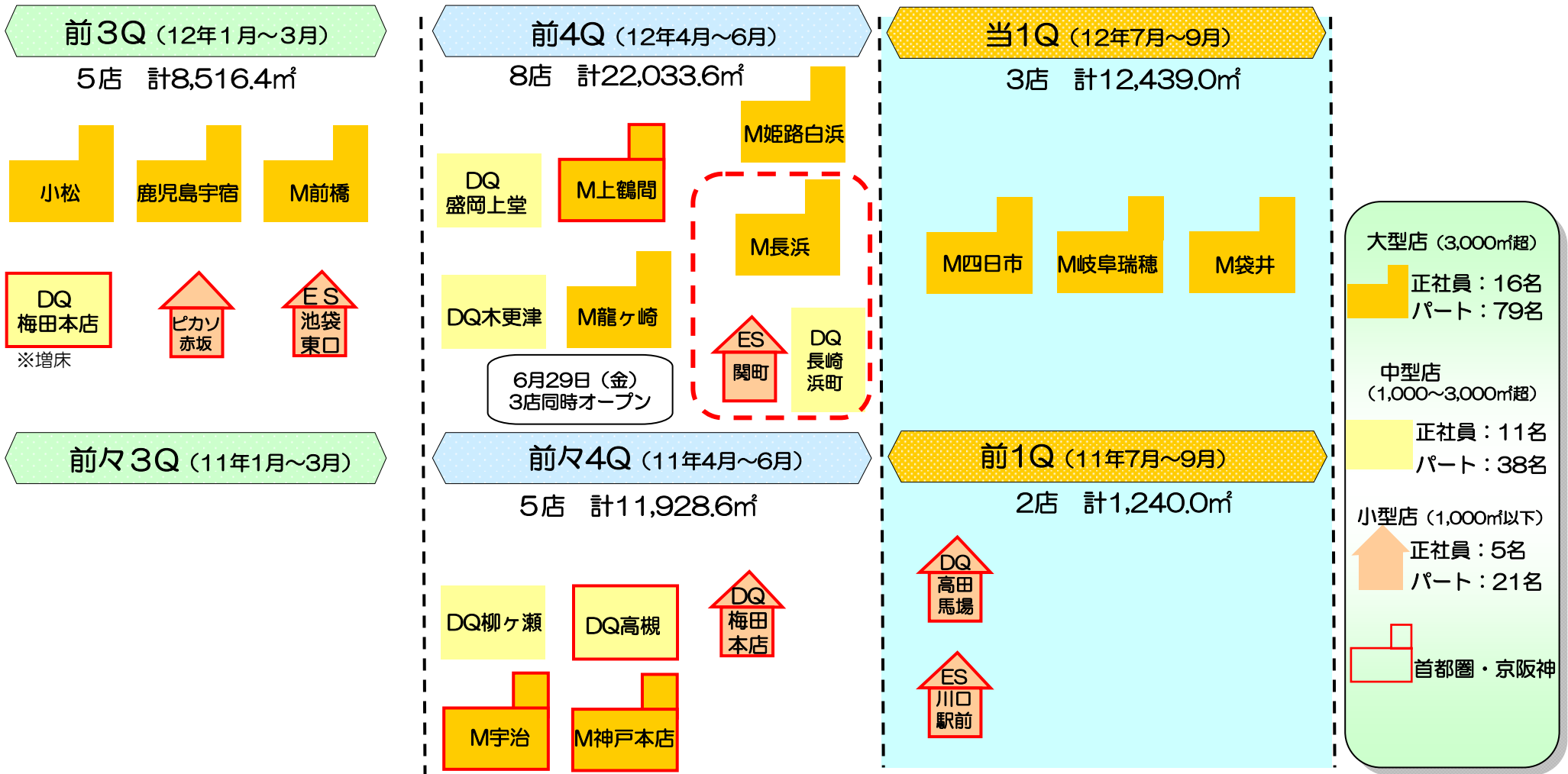
1Qレビュー ～新規出店が貢献～



* DQ既存店は苦戦したが新規店舗が貢献
 * 販管費は新規店舗増に係る諸費用及び光熱費が増加
 * 商品在庫は削減傾向で効率改善



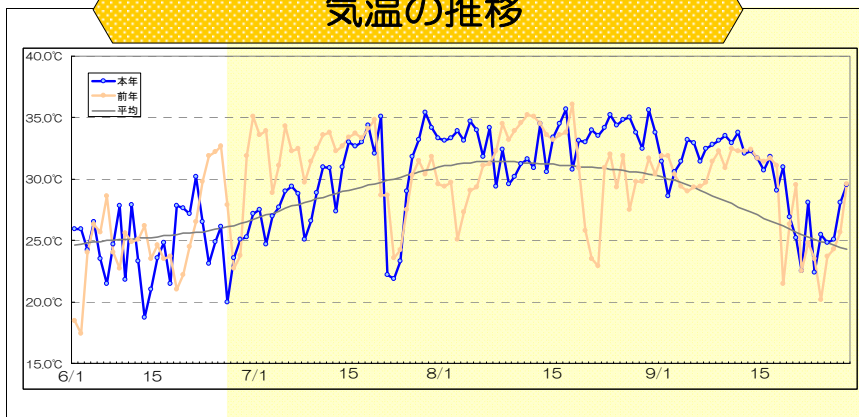
1Qレビュー ～店舗大型化推進～



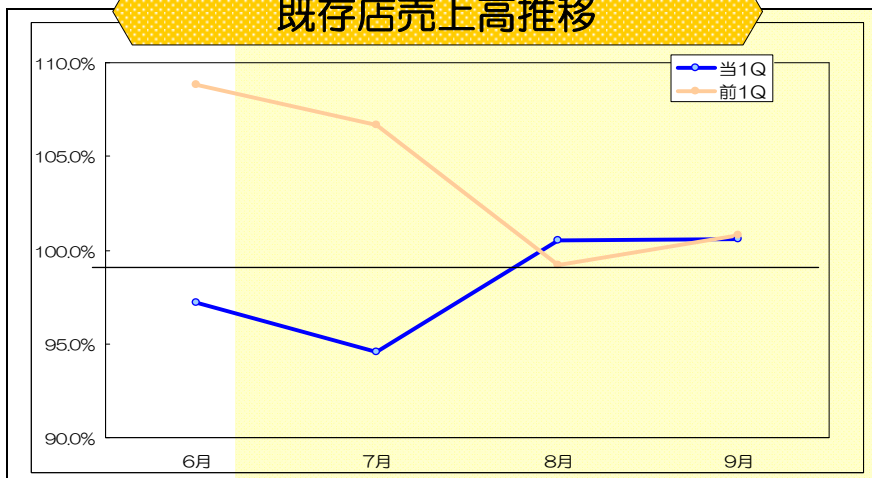
前3Qから首都圏及び京阪神エリア以外の地方エリアに大型新規出店を加速

1Qレビュー ~商品編~

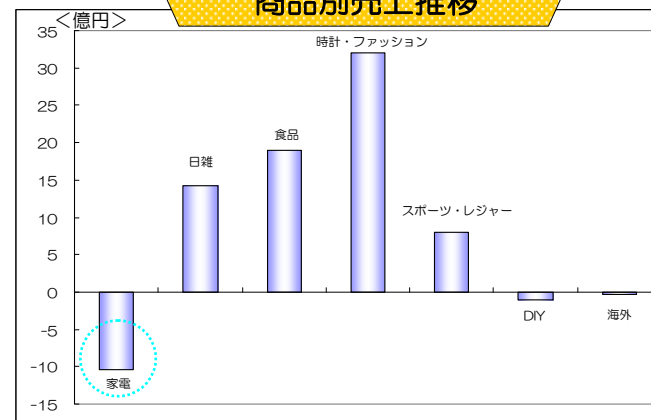
気温の推移



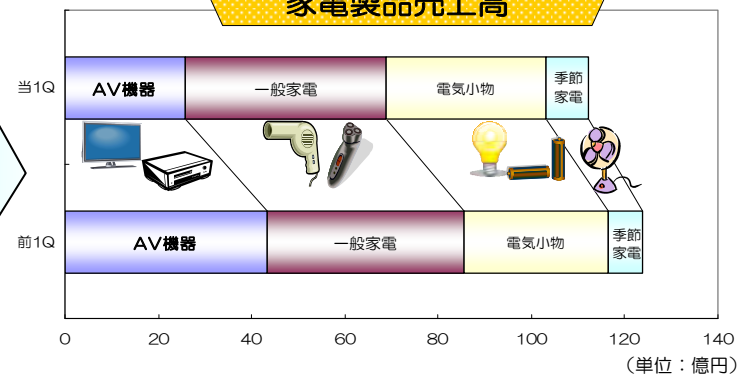
既存店売上高推移



商品別売上推移



家電製品売上高



↑
市場縮小

家電製品売上総利益



↑
粗利改善

* 前期の反動減と高気温・天候不順に対して
適切な商品ポートフォリオの組み替えで時流対応

店舗コンセプトマップ

店舗タイプ	売場面積	アイテム数	商品構成の特徴	主要対象顧客
MEGA ドン・キホーテ (愛称：メガドンキ) 	4,000m ² § 10,000m ²	40,000 § 100,000	衣食住用実用品 食料品&日用品中心	主婦・ ファミリー層 +α
NEW MEGA ドン・キホーテ (愛称：ニューメガ) 	3,000m ² § 5,000m ²	40,000 § 60,000	食=生鮮食品を抑制 衣=実用衣料を中心	主婦・ ファミリー層 +α
ドン・キホーテ (愛称：ドンキ) 	1,000m ² § 3,000m ²	40,000 § 60,000	アミューズメント &バラエティショップ	シングル層 +α
エッセンス ピカソ 	300m ² § 1,000m ²	10,000 § 20,000	特定商品に特化 (ドラッグ&コンビニ &ミニスーパー)	シングル層 +α
ドイト 	2,000m ² § 7,000m ²	40,000 § 80,000	DIY関連&家庭用品	クラフトマン ファミリー層 +α

店舗業態写真館

ドン・キホーテ



NEW MEGAドン・キホーテ



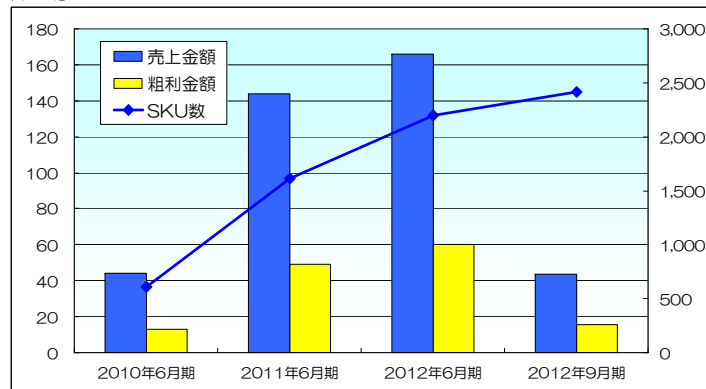
MEGAドン・キホーテ



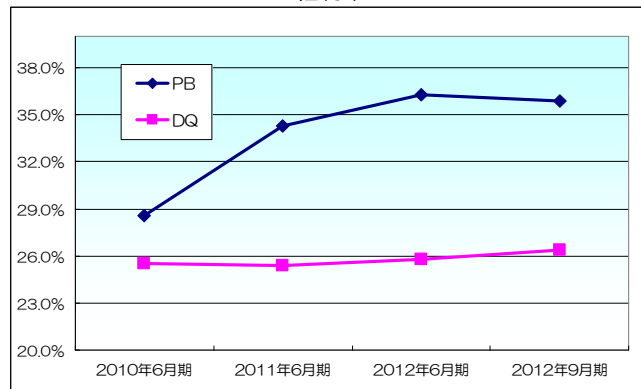
情熱価格インフォメーション



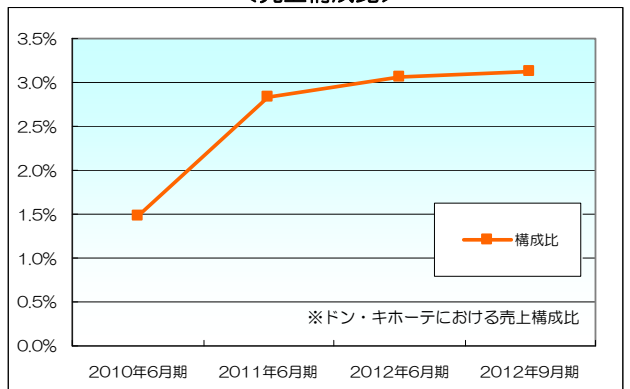
〈売上・粗利金額及び販売SKU数〉 (単位: 億円) (SKU)



〈粗利率〉

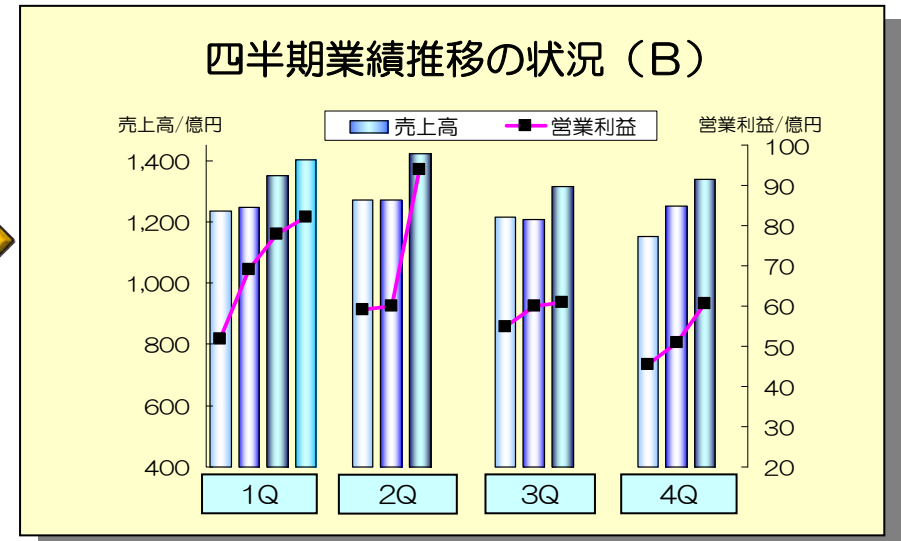
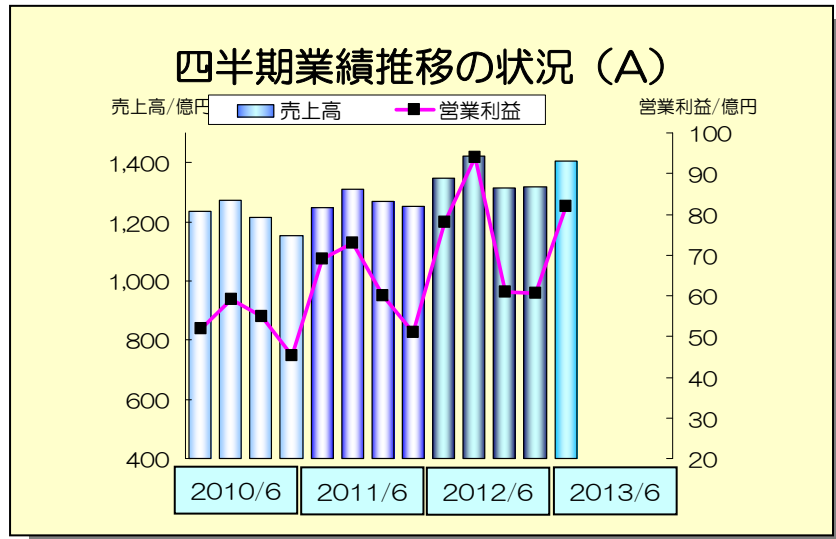


〈売上構成比〉



(注) 本資料はPB「情熱価格」のみのデータであり、OEM商品は含まれておりません。

四半期業績推移



—中長期重点戦略—

1. 30期連続増収増益を目指す
2. PB強化による利益率アップ
3. ソリューション出店という新たな店舗開発

—2013年6月期施策—

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. グループ：事業効率のさらなる改善を進め、お客さま支持率の高い店舗運営を促進
2. 営業方針：業態創造と変化対応
交差主義比率の改善を進めながら商圈内競争力を強化
お客さま層拡大に対応した商品編集とサービスレベルの向上
3. 商品戦略：消費マインドの変化に適応する商品ポートフォリオの改廃と進化
生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進
PB・OEM商品ラインナップの拡充（新機能・こだわり商品など）
4. 店舗戦略：設備投資額（予備費含み）300億円
新規出店15店+ α 、出店地域の拡大、MEGA店の収益力アップ
DQ既存店の予想：上半期=0.5%減、下半期=0.5%増、通期=0.0%増
5. 財務戦略：資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善
デット調達を有効活用。エクイティファイナンスの予定なし
年間配当金予想=31円00銭

連結業績予想

(単位：百万円)

	通 期			2Q累計期間		
	金 額	百分比	前期比	金 額	百分比	前期比
売 上 高	560,000	100.0%	103.7%	287,000	100.0%	103.6%
売 上 総 利 益	145,500	26.0%	104.3%	74,400	25.9%	103.6%
販 管 費	115,000	20.6%	104.3%	57,000	19.9%	104.4%
営 業 利 益	30,500	5.4%	104.0%	17,400	6.0%	101.1%
経 常 利 益	30,300	5.4%	103.5%	17,000	5.9%	103.3%
当 期 純 利 益	20,000	3.6%	100.8%	11,000	3.8%	92.2%
1 株 当 たり 純 利 益	259.29円	—	100.7%	142.61円	—	92.1%
設 備 投 資 額	30,000	—	127.3%	15,700	—	153.6%
減 価 償 却 費	9,800	1.8%	102.5%	4,600	1.6%	102.7%

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、
引き続き増収増益決算を目指します。

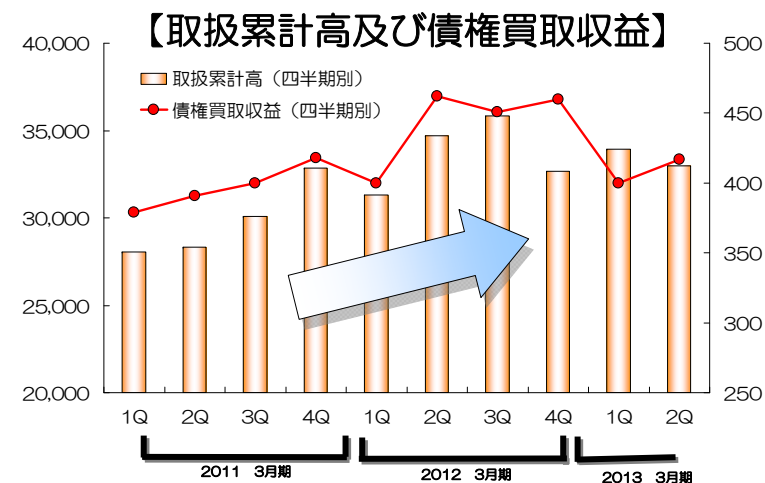
アクリーティブ2Q決算業績概況

(単位：百万円)

【PL概況】	当2Q (12年 4月1日～9月30日)			前2Q (11年 4月1日～9月30日)	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
取扱累計高	66,891	—	101.3%	66,048	—
営業収益	1,343	100.0%	106.4%	1,262	100.0%
債権買取収益	817	60.8%	95.0%	861	68.2%
業務受託収益	460	34.3%	114.7%	401	31.8%
その他収益	66	4.9%	—	0	0.0%
金融費用	152	11.4%	96.3%	158	12.5%
販売管理費	697	51.9%	99.1%	704	55.8%
営業利益	494	36.7%	123.4%	400	31.7%
経常利益	575	42.8%	140.4%	409	32.4%
当期純利益	505	37.6%	127.1%	397	31.5%

(単位：百万円)

【BS概況】	当2Q末		前期末
	金額	増減	金額
総資産	18,187	887	17,300
負債	15,672	478	15,284
純資産	2,515	499	2,016



収益力は着実に上昇し、バランスシートも改善！

本日はありがとうございました。



IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドン・キホーテ IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第33期（2013年6月期）第2四半期決算発表（予定）

決算表日：2013年2月5日（火）

説明会会場：東京証券取引所内 東証ホール（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

株式会社
ドン.キホーテ
Don Quijote Co.,Ltd.